

## 小中一貫教育 Q & A

**Q1** 飯塚市が進める小中一貫教育とはどのようなものですか

**A1** 全国的な教育課題として、小学校を卒業した子どもたちが中学校への入学をきっかけに学習意欲の低下や不登校になるなどの問題（中1ギャップ）が挙げられています。特に、飯塚市ではこのギャップが極めて大きく、中学校1年生時に学力低下や不登校生が急増している傾向にあります。その要因には、学習がむずかしくなることや、小学校での学級担任制から中学校での教科担任制といったシステムの違い、指導体制の違いが挙げられます。そこで、小中学校の教職員が連携・協力しながら義務教育9年間を見通し、小学校から中学校までの子どもの発達と学習の連続性を重視した教育を進めることで、こうした教育課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。

**Q2** 小中一貫教育のメリットとデメリットは何ですか

**A2** 全国で、多くの自治体が小中一貫教育に取り組んでいます。その中で以下のようなメリットが報告されています。

- ・不登校が減少した。
- ・小学校から中学校生活へのスムーズな移行ができた。
- ・学力が向上し、学校が楽しいと感じる児童生徒が増加した。
- ・高学年、特に中学生が低学年の児童と接することで優しくなった。

デメリットとしては学校間での連絡・調整に要する時間の確保の問題が挙げられています。特に、小中学校間の距離が離れている校区では、教育活動を調整して時間を確保するなどの工夫が必要であるとされています。

**Q3** 小学校1年生から中学校3年生までの区分はどうなるのですか

**A3** 小学校1年生から4年生の4年を「前期」、小学校5年生から中学校1年生の3年を「中期」、中学校2年生から中学校3年生の2年を「後期」と、3つに区分（「4・3・2」制）し児童生徒の心身の発達に応じた教育を行います。特に、5、6年生においては積極的に一部教科担任制を進めていきます。

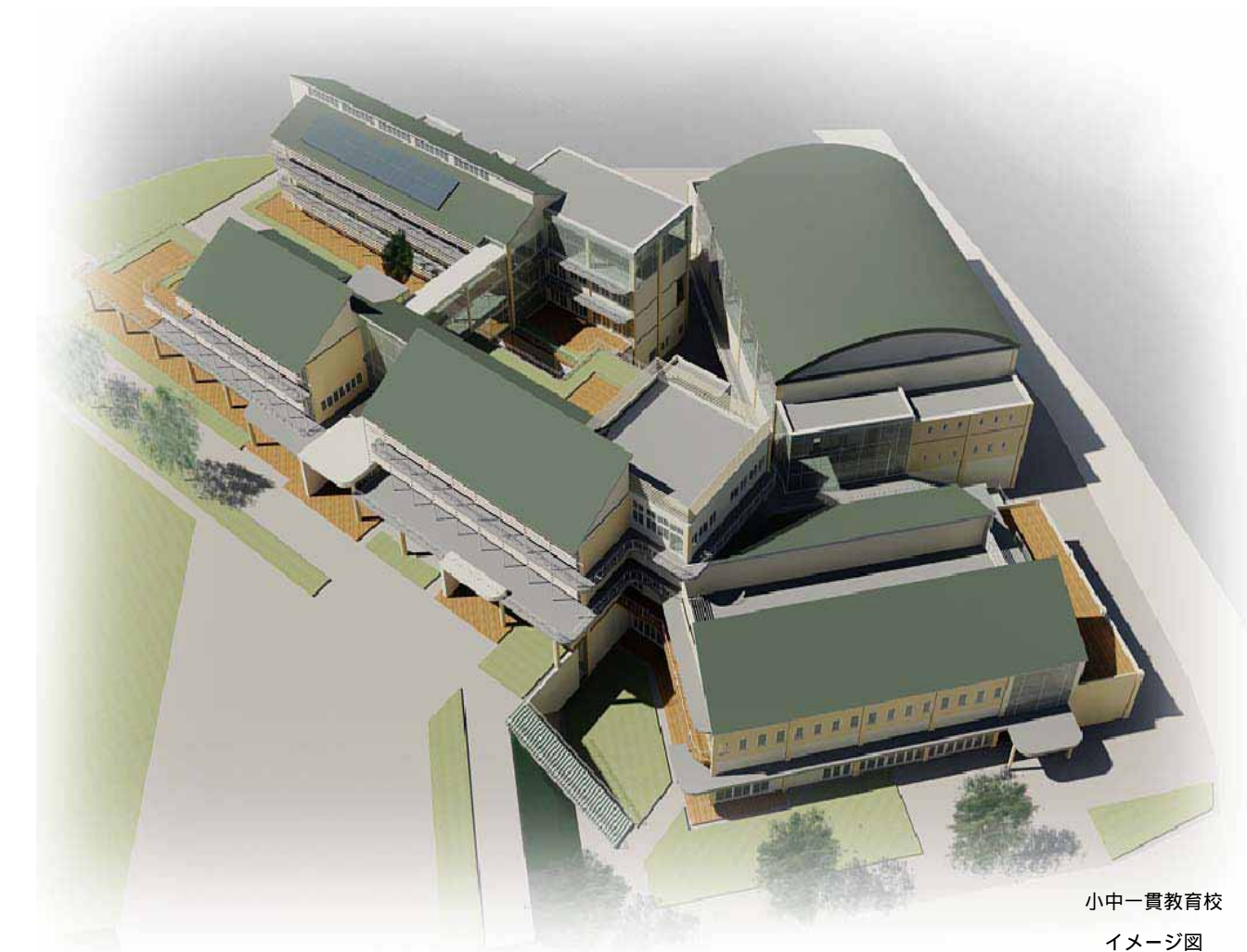
**Q4** 「4・3・2」制のカリキュラムはこれまでと違うのですか

**A4** 例えば中1の学習内容を小5で学習するといった特別なものではなく、従来通りの「6・3制」の学習指導要領に基づいた教育活動が行われます。9年間を見通して指導方法や指導内容を重点化し、各学年のつながりをこれまで以上に重視していくことで小学校から中学校への移行がスムーズになるよう、カリキュラムを作成し実施していきます。

**Q5** 小学校と中学校が離れていても小中一貫教育はできるのですか

**A5** 各小中学校に推進委員会を設置し、小中合同の研修会や乗り入れ授業、児童生徒の交流授業等を積極的に行っていきます。また、小中一貫教育を推進するコーディネーターを市内の全小中学校に位置づけ、小学校と中学校が離れていても小中一貫教育が進められるよう工夫していきます。

# 飯塚市がめざす教育



小中一貫教育校  
イメージ図

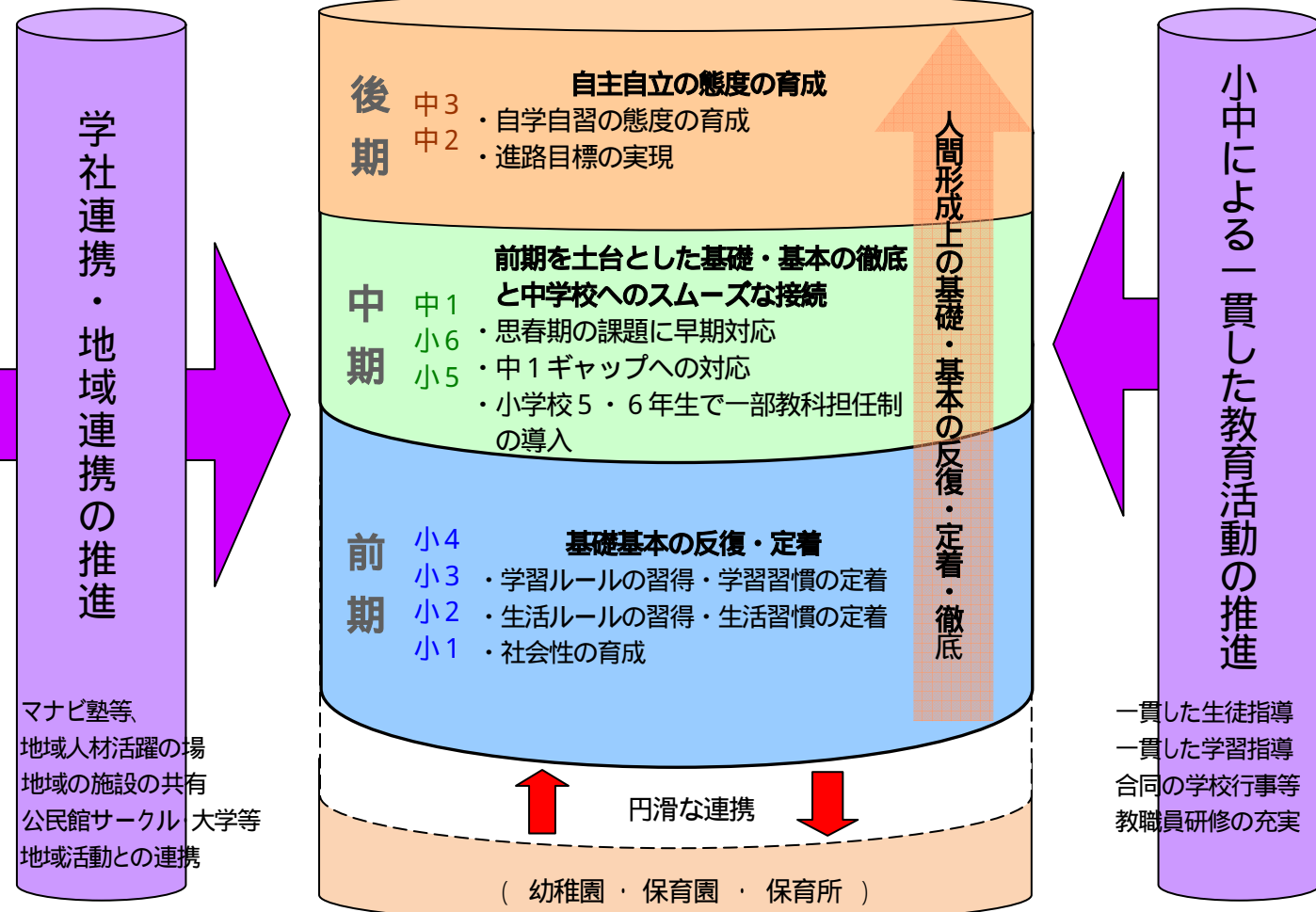
平成23年4月  
飯塚市教育委員会

# 飯塚市がめざす教育

～未来の飯塚市を担う「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成～

飯塚市では中学校区を単位とした小中一貫教育を行い、9年間を見通した教育活動を地域と連携しながら進めていきます。一人ひとりの子どもたちの特性に応じたきめ細やかな生徒指導や学習指導とともに、地域の活力をひきだし、教育活動に活かす学校づくりを行います。

## 飯塚市小中一貫教育構想



### 学社連携・地域連携の推進

…例えば、次のようなことが期待できます。  
 子どもたちが多くの地域の方とかわることで、郷土を大切にする心や感謝の気持ちが育ちます。  
 学校・家庭・地域が協力して地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりができます。  
 学校支援ボランティアの方々に、生涯学習推進の場を提供することができます。

### 小中による一貫した教育活動の推進

…例えば、次のようなことが期待できます。  
 義務教育9年間で計画的かつ継続的に生徒指導や学習指導を行うことで、規範意識や学力の向上が期待できます。  
 子どもの成長を連続でとらえることにより、「中1ギャップ」の縮小化が図れます。  
 異なる学年同士の交流によって豊かな人間性や社会性を育成することができます。

### 飯塚市の教育課題

飯塚市における学力検査の現状は、小学校ではほぼ県平均にあるものの中学校では県平均を下回る状況にあります。  
 また、飯塚市では、小学校を卒業した子どもたちが中学校への入学をきっかけに学習意欲の低下や不登校になるなどの問題（中1ギャップ）が極めて大きく、中学校1年生時に学力低下や不登校生徒数が約3倍に急増する傾向がみられます。  
 さらに、中学校進学時前後（接続期）には勉強や上級生・校則のことなどについての不安や心配事が大きくなる傾向がみられます。その他にも、規範意識の低下に伴う問題行動の増加、学年が上がるにつれて低下する自己肯定感、将来への夢や希望を描けない子どもの増加、体力の低下の問題などが、現在、飯塚市が抱える教育課題として挙げられます。

# 飯塚市内の中学校区での取組事例

今後、各中学校区の実状に応じて、小学校・中学校協働による9年間を見通した一貫性のある指導が展開されます。

## 小中合同の推進組織



校区小中一貫教育連絡協議会  
小中合同研修会

## 小中相互の乗り入れ授業



中学校の教員 小学校で理科の授業  
小学校の教員 中学校で道徳の授業

## 教育活動の交流



小学生の中学校文化祭への参加



「校区内クリーンアップ大作戦」  
小中合同の活動

## 学社連携・地域連携の推進



「学習ボランティア」による  
学習支援



「熟年者マナビ塾」との協働学習



「公民館の子育て講座」との  
連携活動



「放課後子ども塾」(子どもマナビ塾)の活動